

令和8年度ちば若者みらい応援会議

日時：令和8年5月22日（金）

午前10時30分から午前11時20分まで

場所：京成ホテルミラマーレ 6階 ローズルーム

1 開会

2 挨拶（熊谷知事）

皆様こんにちは。委員の皆様方には大変お忙しい中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

つい先日、千葉県の人口が初めて減少に転じたというニュースがございました。この千葉市もそうですし、北西部は人口増加が多く町の町で続いているんですけども、いかんせん、千葉市より先のところの人口減少のスピードが速いということ、それから何より、日本全体では出生率の低下傾向は止まらない状況であり、やはり私たちの社会を今後維持していく中で、あらゆる政策よりも最も重視をされるべきなのが、この少子化対策に尽きるだろうと思っています。

私が全国知事会でよく申し上げているのは、今までの地方創生は結局人口の奪い合いをやっていただけで、結局自然増にはつながらない政策ばかりやっていたんじゃないかと。本当に自然増を増やす、自分の町、自分の県が増えればいいではなく、本当に日本全体として、出生率、自然増が増えるには何が最も効果的なのかと、真剣に考えていくべきだということで、国の人口戦略本部の全国知事会でも、いろいろ仕掛けをしていこうというふうになっています。

ではまず、足元の千葉県の状況ですけども、以前も申し上げたとおり、その背景の中に未婚化があるのは、これは間違いない事実であります。そもそも若い世代の方々が結婚に至るその前の出会いの機会が減少していると考えられること、そのために、交際や結婚だけではなく、まず悩みを共有して精神的な支えとなる友人や仲間との出会いを作ることが重要と考えて、若者が仲間に出会える千葉県づくりを推進していこうとなったところであります。

私ども県では、県内で若者が気軽に参加をしやすい仲間づくり、出会いの場を、県内の企業や団体や市町村の皆さん方と連携をして作っていく取り組みとして、ちば部を実施してまいりました。若者同士が出会うことで無数に広がる若者の可能性を、行政として積極的に支援していくとともに、千葉の様々な分野や地域と若者をつなげることで、それぞれが抱える課題の解決など、本県の未来を支える取り組みにしていきたいと考えており、民間団体の皆様との連携協力をしながら進めてまいりたいと考えています。これまでも様々な皆様方に、このちば部の活動でご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

よりこれを広げていかなければならない。千葉県が官民を挙げて若者が、出会う、その場を応援していく、そのムーブメントを県内に至るところまで広げていかなければならないと、私は危機感を強く持っております。

少子化が進行している中、我々千葉県としても、こども・若者施策に係る部局横断的な企画の立案と相互調整を進めるために、今年度、こども・若者政策課を新設して、少子化対策や次世代を担う子ども若者への支援をより一層強化したところです。

委員の皆様方におかれましては、是非忌憚のないご意見、また様々なご協力をいただきたい。そのことをお願い申し上げまして、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介

4 議事（事務局説明）

（１）若者の仲間づくり支援事業の取組

千葉県健康福祉部のこども・若者政策課でございます。お手元の資料、「若者の仲間づくり支援事業の取組について」をご覧ください。

資料中の２ページから４ページまで、こちらについては、我々の取組の背景や参考となるデータを集めたものでございます。委員の皆様には、認識されている内容も多いと思いますが、改めて共有をさせていただきます。

資料２ページは、現代の若者が考える理想の結婚や子育ての姿、あるいはライフコースについて、国立社会保障人口問題研究所が実施した出生動向基本調査によるデータでございます。

左側の表、「女性の理想ライフコース」にあるとおり、女性においては、かつては理想として選んでいた専業主婦コースが下降する一方で、共働きを志向する両立コースが年々上昇し、２０２１年には３４％と最も高くなっております。また、右側の表、男性がパートナーに望むライフコースの表にあるとおり、現代の若者男性についても、相手に対して共働きを望む割合が最も高くなっております。

一方で、結婚せずに仕事を続けるとする割合も増加しており、２０１５年の５．８％から２０２１年には１２．２％となっております。

さらに、左側の表と真ん中の表で、理想のライフコースと実際の見通しを比較すると、「結婚せず仕事を続ける」という回答は、理想では１２．２％であるのに対し、予想では３３．３％とやや悲観的な見通しを持っている方がいるという結果となっております。

このことから、結婚や仕事に対する若者の価値観の変化や、理想と現実の乖離が生じている状況が見られるのではないかと認識しております。

次に資料の3ページでございます。新型コロナウイルス感染症による影響について、子ども・若者の意識と生活に関する調査のデータでございます。

コロナ禍にありました令和4年度当時、外出頻度について頻繁に外出する、あるいは人付き合いのために外出するといった行動が少なかったことが示されています。

また、こうした外出状況になった理由として最も多いのが、新型コロナウイルスの流行というものが挙げられております。さらに、当時の外出状況に至った期間については、2年から3年未満という回答が多く、コロナ禍の長期化が若者の行動に大きな影響を与えたと認識しております。

このことから、現在の若者は、対面での交流機会が減少し、出会いの機会も大きく制約されてきた世代であると思っております。

次に資料の4ページでございます。若者の求める出会いと婚活に対する考えでございます。令和6年度に県で実施した、少子化に関する若い世代の意識等調査によると、独身者が理想とする結婚相手との出会い方として最も多かったのは、趣味を通じた出会いでした。また、婚活をしない理由として最も多かったのは、「自然に出会いたかったから」という回答でした。

こういった結果から、若者は積極的な婚活というよりも、趣味等を通じた出会いや、日常の中での自然な出会い、こういうものを求めていると理解をしております。

こうした背景を踏まえ、千葉県では官民連携により若者の出会いやつながりを県全体で応援していく取組として、「ミラチバプロジェクト」を掲げ、プロジェクトの一環として、官民連携により若者の出会いやつながりを県全体で応援していく若者の仲間づくり支援事業「ちば部」を令和7年度に発足したところでございます。

次に資料の7ページは、令和7年度の「ちば部」の活動実績でございます。野球、サッカー、ゴルフ、バスケットボール、グルメなど趣味や、若者の関心の高いことをテーマにし、合計18回開催して延べ422人の若者に参加いただいたところです。

また、参加者の満足度についてですが、アンケートの結果、93%の方から満足との回答をいただいたところでございます。ちば部のイベントをきっかけに、個々人で、共通の趣味で継続的に会っています、というような話も聞いているところでございます。

主に令和7年度は、県が活動主体となりまして、約50社の企業や団体の皆様からも様々な形で御賛同いただいたことで、多様な若者の交流の機会を提供することができたと思っております。

一方で、まだまだこの取り組みを拡大する余地はあると思っております。そこで2年目となる令和8年度はより多くの方が参加し、多くの事業者の皆さんに御参加いただけるような、そして若者を応援する機運をさらに大きく膨らませていきたいと考えております。

次に資料の8ページでございます。こうした課題や認識を踏まえまして、令和8年度の実施方針をまとめたものでございます。

県内には、いわゆる若者と言われる方だけでも約150万人、事業所も少なく見積もっても20万所ある中で、これまで以上にこの機運醸成の取り組みを幅広く広げていくような仕組みとしていこうとするものでございます。

具体的には、図の右側の緑塗りした部分にあるとおり、千葉県内の若者全員を「ちば部員」とし、一方で、企業や団体の皆様に幅広く参加いただけるよう、図の左側に①と記載しましたとおり、主体的にちば部を応援いただく登録制度を設け、企業や団体の皆様が開催いただく交流機会等を、ちば部公認の取り組みとして発信していこうとするものでございます。

これにより、皆様による若者応援の想いや取り組みを、なるべく多くの方に見ていただけるよう見える化をして、より一層、社会全体で若者応援の機運醸成を図っていきたいと考えております。

また、昨年度から取り組んでいる県主催のイベントについては、図の中央のオレンジ色の部分でございますけれども、この後に発表いただく若者のアイデアも盛り込みながら、千葉県庁内の各部局とも連携しながら、地域課題の解決につながるような視点も取り入れて、交流機会創出のモデルケースとして示していきたいと考えております。

今後の予定でございますが、ただいまお示しした登録制度、図の①について、夏頃のスタートを目指して取り組んでいきたいと考えております。

本日お集まりの皆様におかれましても、県主催イベントや登録制度について御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。また、これらの取り組みと具体的に連携可能な独自のイベントや企画などのアイデアがございましたら、ぜひ御教示いただくと共に、分野を問わず関連企業、団体の皆様にも御活用いただけるよう、積極的に御紹介をいただきますよう、併せてお願いを申し上げます。以上で説明を終わります。

【質疑応答】

議長 長 ありがとうございます。ただいまの説明について、御意見、御質問がある方、挙手いただけますでしょうか。

天野委員 令和8年度におけるちば部実施方針につきまして、御説明いただき、誠に（岡代理）ありがとうございます。御説明いただいた実施方針は、千葉県全体が一致団結して若者を支援し、機運の醸成を図っていけるものになっているというふうに考えております。

当社グループでは、鉄道、バス、タクシーといった交通事業に加えまして、鋸山ロープウェイ、バラ園、映画館など幅広い分野にわたって事業を展開しておりまして、ちば部の方針に沿った活動はもとより、地域活性化にも寄与できる様々な資源がございます。

私どもとしましても、少子高齢化・人口減少といった社会的課題にも対応し、千葉県のさらなる活動に向けて取り組んでまいりたいと考えております

ので、千葉県からの協力支援のもと、本件に参画してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

議 長 はい、ありがとうございました。御意見ございました。事務局から御意見に対する回答をお願いします。

事務局 非常に心強い応援のメッセージをありがとうございます。私どもとしましても、皆様の持っているツールや魅力を我々の事業にも活かしてまいりたいと思いますので、いろいろと相談をさせてください。よろしくお願いいたします。

議 長 その他に御意見、御質問ございますでしょうか。

越川委員 冒頭の知事の御挨拶にありましたとおり、要するに全国的に最も重視される問題だと、少子化対策だと、そのとおりではないかなと。特に我々スポーツ協会では、この人口減少というものを、少子化が進むということに非常に危機感を抱いております。

やはりチームプレーができなくなる地域がでてくると、個人競技しかできない。じゃあ個人競技にみんな行くかということ、そうでもない。チーム競技をやりたい子ができなくなってしまうというのが一つ。

それから、現在のスポーツ界は、受益者負担という原則で成り立っておりますので、額は多寡ありますけども、自分らが出してスポーツをやると、お金を出して。

競技団体でいうと、登録費があり、それで運営しているということを考えると、やる人間が少なくなってくると登録費も集まらない、スポーツ活動もできなくなってしまうといった悪循環が起きてしまうので、非常に我々も危惧しているところでございます。

こうした中、少子化対策の一つとして、ちば部という活動が昨年からは始まりました。その中心が、主要なものがスポーツ活動であるということで、我々が出る機会が多くなるぞと、スポーツ界にとってもいい話だぞというような捉え方をしております。やっぱり若者の軸で接点を作っていくということは重要な取り組みであるというふうに私は認識しておりまして、スポーツ協会も昨年はチームゴルフの中でアマチュアゴルフ協会が参画させていただきました。

その中で言うておりますのは、企業の方々のお話を伺うと、異業種で若者同士がつながることが普段ではないことだと、そしてスポーツをハブとして人が集まり、つながることは、参加者本人だけでなく、企業にとっても、千葉県にとっても価値のあることではないかなと思っております。

今回、ちば部の方針を受けまして、スポーツ協会としても、応援団の一翼を担わせていただくとともに、ちば部の取り組みを活用しまして、県内の若者のスポーツ活動が増えることを期待しております。

うちは競技団体、地域団体を統括している団体で、県内に非常にネットワークを持っておりますので、そうしたものを活用していただいてですね、若者中心の取り組みが増えるように連携していきます。

企業や団体等に呼びかけるとともに、今年度も多くの若者が興味を持つ企画を作り上げていただきたい。先ほどの分析結果からでも、趣味を通して集まるのが一番多いということですので、スポーツに限らず、いろんな人が出会うツールっていうんですかね、そういうのもあると思うんで、そういういったものを、企画して考えてもらって、とにかくたくさん人を集めると。

昨年の実績だと、最初ですからまだ150万の中の若者人口の422人ということですから、これがどんどん増えていけるような企画を考えていただければありがたいし、我々もそういう企画と一緒に作り上げさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

議 長 はい、ありがとうございます。御意見いただきました。事務局いかがでございますでしょうか。

事務局 ありがとうございます。スポーツ協会さんの関係するところにも、まだまだ広げていきたいというようなメッセージをいただきまして、誠にありがとうございます。それから、多くの人が集まりやすいスポーツというところで、スポーツ協会さんの意見をお聞きしながら、イベントの内容等を検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議 長 それではその他に御意見、御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に、議題2「ちば若者みらい創出プロジェクトチームの発表」について、ちば若者みらい創出プロジェクトチームより発表願います。

（2）ちば若者みらい創出プロジェクトチームの発表

○浅野プロジェクトチーム構成員

それでは、ちば若者みらい創出プロジェクトチームの発表をさせていただきます。先ほども説明がありましたが、若者が仲間に出会える千葉県となっていくためには、若者自身の当事者としての視点や率直な意見が、極めて重要になってくると考えております。このため、若者同士が意見交換を行い、主体的に議論ができる場を創出することを目的といたしまして、ミラチバプロジェクトに御協力いただいている

企業・団体の若手社員・職員を中心とした、ちば若者みらい創出プロジェクトチームを結成いたしました。

私たちは、令和7年10月以降、計4回の企画会議を重ねまして、活発な議論を行ってまいりました。その結果、若者の仲間づくり支援事業ちば部の中でも、県が主体的に関与するコアイベントを一層魅力的なものとするための案について、6つの提案を取りまとめました。本日はそれらの内容について御説明をさせていただきます。

【提案1】

○瓜生プロジェクトチーム構成員

アイデア1といたしまして、まず気軽に参加できるボードゲームイベントカフェイベントを実施したいと考えております。

企画立案の背景といたしまして、大きく2つございます。1点目は、若者を中心に人気を集めている点と、先ほど冒頭、熊谷知事からもあったとおり、出会いの場が不足しているといったところで、出会いの入り口として入りやすい点が挙げられます。

ボードゲームは、誰でも気軽に楽しめるところに強みがあると私たちは考え、趣味嗜好にとらわれず、強みである間口の広さといったところを活かして交流し、より多くの若者が打ち解けられるようになると考えました。

2点目は、価値観の共有がしやすい点です。ボードゲームは、自分の考えや価値観を共有することを自然に行えるようなゲームが多々あります。そのようなゲームと一緒にプレイすることで、お互いの外面だけではなくて、内面も深く知ることによって、より交流が深まり、ちば部全体のコミュニティが活性化すると考えました。

以上の2点により、若者の興味・関心が得やすいボードゲームを通じて、コミュニティ活性化を図りたいと考えております。

イベントの案といたしましては、県内のおしゃれな場所を活用した1日限定の特別ボードゲームカフェをオープンしたいと考えております。若者は「非日常感」といったキーワードにすごく敏感でございます。こちらのボードゲームカフェでは、普段味わえないような特別な空間で、非日常感を演出しつつ、満喫できるような内容で考えております。内容につきましては、チーム内の交流、チーム対抗戦、その後、交流が深まって仲良くなったら、フリー交流などを考えております。

【提案2】

○瓜生プロジェクトチーム構成員

次のアイデアといたしまして、グルメイベントの実施を考えております。こちらにも企画立案の背景が2点ございまして、1点目は若者の食に対する親しみやすさと注目を集めている点になります。近年、グルメフェスや、今年の2月に行われた冬のサツマイモ博などの食の博覧会は、若者を中心に人気を集めております。

2月のサツマイモ博に関しましては、男女のペアでしたり、若者が訪れる機会が見つけられましたので、こういったグルメフェスは、若者を中心に人気を集めている

のかなと考えております。また、首都圏を中心に一人暮らし世代も増加傾向にあるため、お料理にも目を向けやすい年代になっています。これらにより、作る、食べる、交流することにより、若者に参加したいと思ってもらえるのではないかと考えました。

2点目は、千葉県には多くの特産品があることです。落花生や梨をはじめとして、ビワや伊勢海老なども取れていると考えております。様々な食材が名産品として千葉県にはございますので、このような特産品を活かして、千葉限定のイベントとして行うことで、より多くの若者に参加していただけるのではないかと考えました。

イベント案といたしましては、海チームと山チームに分かれて食材を採取し、取れたての食材を使用して全員で料理するものになっております。食材は日によって何が取れているのか異なってくると思いますので、使用できる食材の幅が広く、また、千葉県の特産品でもある「黒アヒージョ」を一緒に、皆さんで召し上がっていただければと考えて、イベントを開催したいと考えました。このような調達から食卓を一緒に囲むことで、若者の交流が促進できると考え、こちらのグルメイベントを開催したいと考えております。

【提案3】

○齊藤プロジェクトチーム構成員

続いては、ちば部合同イベントの開催となります。ちば部では、趣味や関心事のイベントが中心で、自分の好きな分野での出会いをきっかけで作ってきました。それに加えて、部を越えて多くの人が集まる場を作ることで、新たな出会いと趣味の広がりを促し、コミュニティの幅の拡大を目指します。

そこで、ちば部全体の活性化として、ちば部の合同イベントというのを考えさせていただきました。各部活動同士の交流の場として、そしてちば部、しいては千葉県の風物詩として、年に1回大きなイベントを開催したいと考えております。

突然ですが、皆様、運動会といえばどのような思い出がありますでしょうか。運動会といえば青春でしたり、皆さんで同じ目標を達成したりなど、運動会では何かしらの思い出がある方が多いのではないのでしょうか。

大人になって、あの頃の青春を体感する機会っていうのは、実はかなり少なくなっているかと思います。そこで、大人になっても青春を楽しめるようなイベントといたしまして、ちば部大運動会というのを考案いたしました。聞いただけでも少しワクワクするかと思うんですけども、ただ大人の青春を取り戻そうという企画ではございません。私たちの狙いというのは、大きく分けて2つございます。

1つ目は、新たな趣味の発見により、部員の活動範囲の拡大、そして2つ目は大規模イベントによる認知の向上と宣伝効果というところを目指しております。

こちらは、部活動間の交流の機会を創出することにより、参加者がこれまでの接点のなかった分野に興味を持つことを、きっかけとして提供いたします。これにより、複数の部活動への参加や関心の広がりが生まれ、結果としてちば部全体への継続的な関与の促進につながることを期待しております。

運動会後は、自身のチーム以外の人と交流ができるように外でのバーベキューというの企画をしております。以上の2点からちば部の運動会というのを立案させていただきました

【提案4】

○宇佐美プロジェクトチーム構成員

4つ目のアイデアは、女性参加者促進イベントです。ちば部の参加者のアンケートを見ていて、参加者全体における女性参加者の比率が低いという点に気づきました。

女性の参加率を高める必要性についてですが、同性同士のつながりから広がるコミュニティ形成も重要である一方で、より幅広い交流機会を創出し、出会いの場としての機能を高めるという観点からも、女性の参入は欠かせないと言えます。また、女性は口コミによる情報発信力が高く、その影響力は参加者の拡大にも大きく寄与すると考えています。実際に女性参加者の増加は結果として、男性の参加率の増加にもつながると考えられるため、全体の活性化を図る上でも重要なポイントであると言えます。

そこで、女性参加者を増やすにはどうしたらよいかということを考えました。女性が参加しにくい理由として挙げたのは、まず一つが、男女混合のイベントに女性が1人で行くのはハードルが高いということ。そして2つ目に、既存の部活が女性の興味よりも男性の趣味に偏っていることなどでした。

そこで考えたのが、ちば部レディース交流会です。内容としては、アフタヌーンティーやカフェなどの女性に人気の場所や、サウナ・映画などの一人では行きづらい場所で、女性同士が交流するイベントを行うというものです。

女性が既存の各部の活動に参加するにあたっての準備段階として、このように女性の輪を広げる機会を創出し、積極的なイベント参加を促進することによって、ちば部の活動が男女の偏りなく楽しめるものになるのではないかと考えました。

【提案5】

○齊藤プロジェクトチーム構成員

続きまして、オンライン交流ツールの強化になります。現在のコミュニケーションツールといたしましては、プライバシーに配慮された、安心して利用できる仕組みとなっておりますが、匿名性が高く、掲示板的な機能にとどまっているため、イベント後に特定の相手と継続的に連絡を取ることが難しい状況です。

そのため、イベント中に連絡先を交換しない場合、その後の関係構築につながりにくい状況が生まれております。一方で、イベントの場で個人的な連絡先を聞くことや、伝えることに抵抗を感じる方も一定数存在しまして、その結果、せっかくの出会いが交流につながらないケースも少なくありません。

さらに、皆さんがこういう場になった時にどうされますかというところなんですけど、さっきお話しした、あの子の連絡先が欲しいのに、席が離れてしまったので、

聞きにくいでしたりとか、そこにいる方がすごいタイプだけど話しかけにくいだったりとか、このような状況が皆様もあったのではないのでしょうか。イベントが終わった後に、それで心残りがあると悔しいかなと思いますので、そんな状況を解決する一つのツールといたしまして、オンライン交流ツールの強化が必要ではないかと我々は考えました。

こうした課題を解決する一つの手段といたしまして、オンライン交流ツールの機能の強化が有効だと考えました。具体的には、個人の連絡先を直接交換せずとも、イベント後に安心して交流を継続できる仕組みとして、「ちば部 ID」というのを導入いたします。ちば部 ID を交換することで、イベントで出会った相手と、まずはオンライン上で気軽にメッセージのやり取りが可能となります。

その上で、信頼関係が深まった段階で、自然に個人の連絡先交換へと移行できる流れを作ること、無理のない形で継続的なコミュニケーションを促進いたします。

このように、プライバシーを守りながら交流のハードルを下げる仕組みを整えることで、参加者同士の関係構築というのを後押しし、コミュニティ全体の活性化につなげていくことを目的としております。

【提案6】

○鎌田プロジェクトチーム構成員

最後に、ちば部のイベントの拡充していくためのアイデアについて、提案させていただきます。今回、プロジェクトチームで議論をしていく中で、若い人たちの趣味や関心ごとが、非常に多様化していくなというところを実感いたしました。

実際に私の周りでも、サバイバルゲームとか、爬虫類の飼育とか、モルックというスポーツとか、少しニッチな趣味を持つ人というのが多くいます。そして、お話を聞いてみると、そういった独自の趣味を持っている人ほど、一緒に楽しめる仲間が欲しいという思いを強く持っているというところも分かりました。

実際には、現在はオンラインで趣味仲間を募集するようなサービスもありますが、実際に募集を見てみると、東京都内に集中していたり、特定の趣味しかなかったりしているのが実情で、千葉県内でのそのつながりを見つけるというのがなかなか難しいのが実情だと思っております。それと同時に、現在のちば部におきましても、自分の趣味に合うシーンとかイベントがまだないよという方々も少なくないと思っております。

そこで我々が御提案したいのが、誰でも自分の趣味に応じた部活動や地域活動のチームやイベントを開催できる、ちば部イベント掲示板というのを提案させていただきます。これは、ちば部の公式ホームページだったり、公式の LINE アカウントの中に設置いたしまして、誰もが気軽に仲間たちを募れる仕組みとなっております。

こちらが実現すれば、ニッチな趣味を持つ人でも、新たな仲間を作ることができると考えています。それに加えて、現在、ちば部にあるチーム内でもより小規模で気軽なイベントを立ち上げられるので、より活発化していくかなと考えており、何度も

何度も交流を重ねていくことで、より深い絆を作ることができるのではないかと
思っております。このちば部イベント掲示板を通じて、若者の出会いの機会をさらに
広げていき、より深い交流へと発展させていく、そんな仕組みにしていきたいと
思っております。

以上で、ちば若者みらい創出プロジェクトチームの発表を終わらせていただきます。

【質疑応答】

議長 ありがとうございます。素晴らしいアイデアがたくさん出てきたという
ふうに思います。ただいまの発表について御意見、御質問ある方、挙手お願
いいたします。

阿部委員 先ほどは素晴らしい発表をありがとうございます。我々ミライノラボ、
あまり馴染みないかと思いますが、実は千葉大学で、地方創生プログラム、
こちらから派生しまして、教職員で立ち上げました千葉大発ベンチャー企業
という形で8年前から活動しております。我々の組織自体は、千葉大学の
現役学生が学生研究員という立場で、今25名くらい所属しております。

ベースは、先ほど知事からもありましたように、どちらかというとな千葉の
東南部、人口減少が多いローカルエリアの地域課題を中心に、もちろん
都市部の方もですけど、課題解決を学生目線、若者目線でやろうという形
で活動させていただきます。

今回もこのちば部立ち上がりの時にお話を聞きまして、参画企業という
ことで、若者の交流もなんですけど、私達としては、学生がせっかくだいい
視点を持っていますので、直接的に関わることで、いろいろ提言できるん
じゃないか。このようなこともありまして、手を挙げさせていただき、参画
させていただいております。

これまで参加しているのは少しずつ聞いてましたが、ここまでの
プログラム立ち上げていただきまして、本当こういう貴重な機会で企業の
実際のリアルな場所を体験できて非常に良かったと思います。

もしかすると、こういう場面なんかもちば部で何かしら用意してみると。
全部仕切りを若者に任せるとか、そんなのもありかなと。意見というか、
感覚もあります。

最後に、非常に貴重な場面を含めまして、先ほど今回の取り組みを、
事務局からもご説明いただきました。今後、ぜひこれを県および関係する
企業様と一緒にやりながら、いい形で持っていきたいなと、そのように思っ
ています。

本当に今、若者というか学生と接していると、自分の感覚が古いというか、
おかしいというのを常に感じます。わからなかったら、逆に若者に聞いた方

が AI より的確な判断、答えが出るなというぐらい貴重な意見だと思って関わっております。

多分、上の世代の考え、規律というものも大切ですけど、自由な発想でやらしてあげる、こういったものを今後期待したいなと思ひまして、発言させていただきました。僭越ながらでございますが、今後ともよろしくお願いいたします。

議 長 ありがとうございます。御意見いただきました。事務局、いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。我々も若者の感覚、感性というものを大事にしていきたいと思ひます。素晴らしいアイデアもたくさんいただきましたし、今、委員の方からも、若者の裁量拡大というか、決定権みたいなのところもございましたので、アイデアは大いに生かしたいと思ひますし、運営も含めて、若者の携わっていただく部分の裁量を大きくしていきたいなと思ひます。ありがとうございます。

議 長 はい、ありがとうございます。それでは、その他に御質問、御意見ございますでしょうか。

青柳委員 今、プロジェクトチームの取り組みを御説明いただきまして、さすが同世代の若者、当事者の若者の皆さんが考える発想っていうのは、当然我々とはやっぱり違うなっていうのを素直に、率直に感じました。

私も今までやってた取り組みで、もちろん出会いの場を作るっていうのが一番大切なことだということは分かってるんですけども、やっぱりやってるのが私も男なので、少しく、男性目線のプロジェクトが多いのかなみたいな気はしてたんですね。

だから女性はこういうものに積極的に参加していく動機づけって、どのレベルなんだろうと思ひてたんですけども、女性だけでまず交流の場を作るということで、男女の出会いの場のところに入っていくハードルを下げる、これ素晴らしい取り組みだなと思ひました。

女性同士の女性だけの趣味と、やっぱりそこに男性が入ってきた時の雰囲気とか心理ってどうしても差が出てくると思うんですけども、まず出会うというところのハードルを下げて、そこから次にステップとして繋げていく、これ素晴らしいなと思ひました。

それから、やっぱり今の若者は当然 SNS、オンラインを使ってコミュニケーションを取るというのは当たり前のことなんだと思ひます。それを

きちっと当事者目線で活用していくということをプロジェクトの内容に入れているということも、これも今風で素晴らしいと思いました。

特に趣味の中で言うと、ニッチな趣味を持っている方がたくさんいる。そういう方たちにも呼びかけて、仲間を募るような場を SNS 上で作っていくっていうのは、これも本当に若者は当然のこととして発想することなんだろうと思いました。

趣味って多様化してて、確かにニッチな趣味を持たれてて、関心のない方にとっては全くどうでもいいことなんだけど、その趣味を持っている方たちっていうのは、本当にそれに対して強い関心を持ってるし、やっぱりそこに仲間がいっぱいいて、ニッチな趣味のアプリを使ってビジネス化しているところがいっぱいあるんですよね。

そういう意味では、そういうところに目をつけて、ニッチな趣味に呼びかけるというところから、それぞれより強いつながりが出てくるんだろうと思うので、そういう発想もやっぱり素晴らしい発想だと思います。

これからも、そういう当事者の年代の方たちの、等身大の発想でいろんな企画をしていけば、このプロジェクトっていうのが広がっていくんだろうなというような感想を持ちました。素晴らしいと思います。以上です。

議 長 ありがとうございます。御意見いただきました。事務局いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。事務局としましても、令和7年度、女性の参加率が男性に比べて低いというような課題は持っておりまして、まずハードルを下げるとか、あるいはさらにステップを細かく設定していくというところは、新たな視点であり、大切なヒントをいただいたのかなと思いました。

それからもう一つ、ニッチな趣味や関心事についての呼びかける視点というところも新鮮でございました。こういうところもどうしたら取り込んでいけるのかということも含めて、持ち帰って検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

議 長 はい、ありがとうございます。お時間になりましたので、御質問、御意見以上とさせていただきます。ありがとうございました。最後に全体を通じての御質問、御意見、ご発言ある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

議 長 それでは、最後に私からも一言申し上げます。

ここまで、委員それぞれのお立場から、若者の仲間づくり支援事業に対してさまざまな前向きな御意見をいただきました。ありがとうございます。

若者の出会いやつながりは、地域全体で創出していく必要があると思います。そのためには、自治体のみならず、企業や各種団体など、地域の様々な主体が連携して取り組む必要があると感じます。

私が頭取を務める千葉銀行といたしましても、昨年度に引き続き協賛するスポーツイベントなどを通じまして、このちば部の活動を積極的にサポートし、若者の出会いやつながりの創出を応援していきたいと考えております。本会議に御参加の委員の皆様におかれましても、ぜひとも本取組に主体的に御参画いただければと感じているところでございます。よろしくお願いいたします。

議長　それでは、ただいまの議事を受けまして、熊谷会長から一言、頂戴したいと思えます。

5 コメント（熊谷知事）

ありがとうございます。今日は皆様方からも御意見をいただきましてありがとうございます。また、若者プロジェクトチームの提案も大変私も興味深く聞かせていただきました。やっぱり当事者に勝るものはないなと感じます。我々が意識していかなければいけないのは、送り出すということです。それから声をかけると。

結局、今、マッチングアプリも含めて、インターネットで流行っていくと、マッチングの仕組みがどんどん向上してきたことによって、自ら動ける人、自ら行動できる人はよりいい形で出会えるし、いろいろな趣味も含めて充実していくんですが、世の中は、主体的に行動する人は3割ぐらいしかいないっていうのは、昔も今も変わってませんので。

ここにいる人たちは比較的主体的に行動する方々が多くて、この場所にいらっしゃるのかなと思いますが、世の中の多くは出会いそのものも、先輩に声をかけられてとか、いろいろ誰かから言われて行った結果の出会いから、その先が貴重な友人関係や、もしくは結婚・出会いに至っているケースが非常に多いんですが、今の時代、マッチングの精度が高まれば高まるほど、置いていかれている人がどんどん増えているというのが現状だというふうに思っています。

だからこそ、我々は受け皿もいろんな方々に協力いただいて、こういう場は増えていく。でも、場を作っただけで満足すると、結局そこに参加するのは、意欲のある人、行動力のある人ばかりになってしまうので、若者が構成員にいる企業や団体、県内のすべての人たちが、自分たちの構成員にそれをどうだい、というふうに声をかけて、複数人で出席をするようにしなければいけないというふうに思います。

やっぱり個人でこういう知らないイベントに参加するのは、相当行動力のある人になってしまいますから、そうではなく、意欲的じゃない人も含めて参加しやすい仲間で、いわゆる構成員の集団でこういうものに応募するような状況を、すべての私たち、こういうふうな構成員を抱えている人たちが意識するっていうことができ、初めて

私はこういう取組が意味をなしてくるというふうに思いますので、私自身も企業の経営者の方やあらゆる方々に、これからも、そういう形で場は作ってますから、ぜひ声をかけて、複数人で行かしてあげてくださいということを、呼びかけていきたいと
思いますので、ぜひ皆様が、様々なところで、それをお声がけいただければ大変
ありがたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

6 閉会